

# 大支援研ニュース

特別支援教育

平成21年3月23日発行  
大阪府支援教育研究会  
会長 井崎 敏彦  
(豊中市立第八中学校)

4月号は  
4月下旬  
発行予定

ホームページもご覧ください。<http://fuyouken.visithp.jp/>

近日中にホームページアドレス変更予定しております。ニュースでお知らせします。

ニュースや本会活動への問い合わせ・ご意見は、Mailにて件名に「大支援研問合せ」など「大支援研」を入れてください。

**jimukyoku07@fuyouken.visithp.jp**

アドレスをテキストで載せるとスパムメールが多数届いてしまうので、画像で張り付けてあります。

お手数ですが、手入力をお願いします。(なお、近日中に新アドレスに変更予定です。ニュースでお知らせします。)

**大阪府支援研総会予定** 平成21年5月14日 **アウィーナ大阪 4階 金剛(東)の間**  
議事終了後、記念講演を予定しています。どなたでも参加できます。

**大阪府支援研役員総会予定** 次期本部・支部役員の方はご予約ください。

第1回平成21年 6月11日(木)午後3時～5時 **アウィーナ大阪 4階 金剛(東)の間**  
第2回平成21年 9月10日(木)午後3時～5時 **アウィーナ大阪 3階 信貴の間**  
第3回平成22年 1月14日(木)午後3時～5時 **アウィーナ大阪 3階 生駒信貴の間**

## 府教育委員会との懇談会

**報告記事をご覧ください。**

## 冬季研修会 **報告記事をご覧ください。**

平成21年1月6日(火)八尾市文化会館プリズムホール

○性教育 ○FBM○臨床動作法  
○個別の指導計画、個別の教育支援計画

## 自閉症教育プロジェクト・教育講演会

**報告記事をご覧ください** 平成21年2月28日(土)

『子ども期に必要な支援ー青年期、成人期を見通してー』  
神戸市須磨区保健福祉部健康福祉課あんしんすこやか係  
主査 松本恵美子先生

## 冬季教育講演会 **報告記事をご覧ください**

平成21年1月17日(土)

「障害者の自立と就労を進めるためには」  
～(株)かんでんエルハートの取り組みから～  
株式会社かんでんエルハート参与 戸田 幸彦 氏

## LD教育プロジェクト講演会平成21年3月7日(土)

**報告記事をご覧ください**

「通常学級における学び合いを支える支援」  
岡山大学教育学部教授 佐藤 暁先生

## 他団体記事紹介 (他団体が主催の講演会・研修です。)

### 第22回 大阪ムーブメント教育 研究会のご案内

**添付の案内をご覧ください。**

平成21年4月11日(土) 14:00 ~ 16:00  
大阪教育大学 天王寺キャンパス 参加費 :500円(当日)  
☆大阪ムーブメント教育研究会ホームページ  
<http://homepage2.nifty.com/osaka-movement/>

本研究会で紹介していますが、問い合わせ等は当該団体をお願いします。

### チャレンジキッズ研究会 2009

「特別支援教育におけるICTの活用と  
情報モラルを考える」

2009年3月28日(土)13:00~17:00

(第1部)(第2部は懇親会を予定)  
滋賀大学教育学部附属特別支援学校、  
北海道(詳細は本会HP)  
メイン会場の滋賀と北海道会場をインターネット  
ネット会議システムで接続して行います。  
どちらか近い方にご参加ください。

## 大阪府支援教育研究会と大阪府教育委員会との懇談会

2月6日（金）に大阪府支援教育研究会と大阪府教育委員会との懇談会が行われました。大阪府教委からは8名、大支援研からは、本部役員、支部長、行事部員の15名の合わせて23名の参加でした。大支援研からは、20年度の活動報告をし、大阪府教委からは『大阪の教育力』向上プランに基づいて、支援教育の現状と課題、および今後の方向についての説明がありました。大阪の教育力 向上プラン については、大阪府教委のHPよりダウンロード可能です。

<http://www.pref.osaka.jp/kyoisomu/plan/index.html>

支援教育に関しては、基本方針3の重点項目8～12（p18、p19、p90～p106参）に詳しくあげられています。ぜひ、ダウンロードしてお読みください。

今回の懇談会では、大支援研からの参加者のほとんどが発言する機会があり、大阪府教委に多くの現場の意見を聞いていただくことができました。本当にとても充実した懇談会になりました。



# 自閉症教育プロジェクト講演会報告

日時：2009年2月28日（土）2時～4時30分

場所：大阪市立中央会館ホール

講師：神戸市須磨区保健福祉部 松本恵美子先生

テーマ：「子ども期に必要な支援－青年期、成人期を見通して－」

## 報告：

松本先生には、昨年度も発達障害の子どもたちの特性について分かりやすく講演していただきました。今回は、青年期や成人期を見通して、子どもの時にどのような視点で、どのような内容で学習や支援を行なっていけばよいのかをテーマにお話ししていただきました。時期がちょうど年度末の忙しい時期に入ってきていましたが、会場には60名を越える先生方の参加がありました。保護者の参加も数名ありました。

前半は、ADHD、アスペルガー障害と高機能自閉症、学習障害の特性についての具体例をあげてのお話でした。自閉症の特性では、特にことばの意味理解ができていないことから、さまざまな行き違いが生じることを具体的な例で紹介していただきました。

後半は、特別支援教育の新たな課題として、従来のボトムアップでの取り組みだけでなく、トップダウンでの目標設定と取り組み内容の設定が大切なことを紹介していただきました。これまでは、認知スキルやコミュニケーションスキル、友だちとの間でのやり取りなど、下から積み上げていくボトムアップでの教育が主流でした。現在は、これまで支援してきた子どもたちが青年期に達し始めてきていて、新たな課題も出てきています。学校のなかだけでの学習ではなく、青年期や成人期になった時点から見なおした目標や内容の設定がなされること、つまりトップダウンでの取り組みも大切となってきました。社会に出てから SST では対応できない点などに、LST（ライフスキルトレーニング）の取り組みでアプローチしていくという視点です。社会システムの理解や対人関係、生活管理など紹介していただきました。この後半部のお話に対しては、参加者のアンケートの中でさらに詳しい話が聞きたいという意見がいくつも見られました。（金井）



# 2008年度冬季研修会 報告

今年度の研修会を2009年1月6日に八尾プリズムホールで行いました。冬休みで、まだ年始の行事も続いているだろう時期であるため、参加者数はそれほど多くなく100名強に留まりましたが、来られた方は皆、意欲的に熱心に学ばれ、充実した内容の研修となりました。とくに動作法の分科会は希望者が定員を超え、もう少し広い部屋で行うべきであったと運営の側では反省しています。他の分科会においても、熱心な研修が行われました。参加者の声の中に「人数が少ない分、参加した私たちはお得でした」というものがありました。時間が短く質問ができなく残念でした、また開催してほしいです、という声も少なくありませんでした。今後もより充実した研修ができるようにつとめたいと思います。

また、この研修会に参加された泉大津市の方が、この内容について泉大津市内で報告会を実施されたと聞きました。このような形で実践が広まっていくこと素晴らしいですね。

各分科会の状況と参加者アンケートの一部を紹介します。

## FBMの基礎と実技



この分科会は、FBMについて、ほとんど知らずに参加された方が多く、人数的には少なかったのですが、部屋の大きさや、具体的に教えていただけたという点からは、とてもよかったという感想が多くありました。

バランスボールに似た大中小様々なボールを使いますが、空気の量は50%以下等かなり減らしたものを使い、運動するというよりは、

リラックス感や動きの安定性等を助けるために、とてもよいものだと思えました。

一人ひとりボールを使って体験し、ていねいに教えていただき、途中、実際に子どもたちがボールを使って訓練している様子もを見せていただいて、よく分かりました。

想像していた以上に奥が深く、肢体不自由のお子さんだけでなく、知的・情緒のお子さんや、お年よりの介護にも、そして自分自身にも、リラックスした感覚を味わうことができるものでした。

また、ぜひ、この分科会、研修会を！ という声がたくさんありました。



## 性教育

講師としてお二人の方にお話をお聞きしました。大橋さんは成人した男のお子さんのお母さんとしての立場から、中村さんは育成会の相談支援専門員としての立場から、成人した方たちの現状をお話して下さいました。その後、参加者からの質問に具体的にお答え頂きました。



その中で、保護者と担任との共通理解の必要性、指導者側の共通理解の上での指導など、示唆に富むアドバイスを頂きました。

性教育は0才から始まっている。手をつなぐことだけがスキップではない。「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の中で、性についての記述が必要である。教師が関わられるのは6年・3年が限度、後は親がみなければならない。そのためには、将来を見据えた「生きる力」をどう身につけるかが大事であるということ、強く話しておられました。

その他にも沢山の質問があり、2時間という時間が短く感じられるほどでした。

## 個別の教育支援計画・個別の指導計画

具体的な内容で分かりやすく説明してくださり、参加者には好評でした。とくにICFについて知りたかったという方に参考にしていただくことができたようです。

また、具体的な内容についての演習があり、明日からの実践に直接役立つような学習内容でした。以前に同様な研修を受けられた方は発展的な理解につながりました。

研修の内容は次の2点でした。

### 1、「個別の教育支援計画」および「個別の指導計画」の概要について

どのような意義を持つものであるか、短期目標の立て方や、支援・指導のための課題分析の必要性等、具体的事例をもとに説明していただきました。



### 2、ICF 関連図を使った「個別の教育支援計画」作成演習

ICFの視点から子どもをとらえ、どのような支援の手だてが考えられるか、グループに分かれて討議しました。関連図作成は初めてという参加者もありましたが、熱心な演習ができました。



## 臨床動作法の基礎と実技

30名の定員を大きく超える希望があり、何人もの人に対してお断りさせていただきました。

参加された皆さんは、どの方も意欲的で、講習の時間がとても短く感じられました。また講習をうけたい、もっとくわしく知りたい、さっそく明日から実践したい、という声も多かったです。



2人ずつペアになってのスキンシップ、体の動かし方だけでなく、力の使い方、言葉のかけ方など、リラックスしながら多くのことを学びました。

会場の広さが十分でなかったことなど今後の反省材料とします。そして講師の方、マットなど準備に尽力していただいた方に厚くお礼申し上げます。

@@

## 参加された方の アンケートから…

### FBMの基礎と実技

- ・ 肢体不自由児の運動・訓練にとってもいい。
- ・ 知的や情緒の子と一緒に楽しみたい。
- ・ どんな子にも活用できそうですね。
- ・ 毎日少しずつでも取組みたい、もっと知りたい、ワークショップの案内がほしい。
- ・ リラックス感や動きの安定性などがよく分かりました。実技でいろいろ教えていただき、方法がわからない時にさっと来ていただけたので、とても分かりやすかったです。
- ・ 少人数でさびしかったです。参加した私達は、とってもお得でしたが。
- ・ 2回目ですが、実践する時間が多く、分かりやすかったです。また実施してください。

**性教育**

- ・教師とは違う視点での話が聞けて参考になった(複数)
- ・事例をあげて話していただきイメージがつかみやすかった(複数)
- ・「先(10~20年先)を見据えて、今はどのような指導をしていくべきか」という考えは参考になった。どうしても「今」に目が行ってしまい、「先」のことを忘れがちになるので、今後は注意していきたい。
- ・親の立場からの思い、学校に望むこと、将来を見すえて「生きる力」をどう身につけるか話が聞けてよかった。性教育は0歳から始まっており、小さい頃からしてよいこと・悪いことをしっかり教えていくことが大切。手をつなぐ必要はない。スキンシップは心の交流であって、体がふれあうことではない。
- ・初めて支援担になり迷いながらの指導支援だったので、「本当にこれでいいんだろうか」が、「とにかく今日聞いたことを実践していこう」に変わった。
- ・広汎性発達障がいの子どもの間で性の問題に直面しており、親との関わりも含め、たいへん参考になった。特に中学校では、特別支援と性の問題は切り離せない問題だと痛感しているので、また勉強したいと思っている。
- ・第二次性徴に関して、保護者と相談して同じ方法とする。人の体にさわらない、さわらせない、など具体的なことを親に言う、という点など参考になった。
- ・「基本的な生活習慣の確立」が、これほど大切に思えた講演はなかった。具体的に目の前の担任している子どものチェックをして、まだできていない点を家庭と協力して支援していこうと思う。
- ・(性的な課題が多い児童について)親は心配が絶えない。担任は、できるだけ寛容に受けとめ、対応するよう心がけてはいるものの、一緒に悩んでしまうことがある。お二人の先生の話は、そんな私に元気と示唆を与えてくれた。
- ・大橋さんが親として経験された「生の声」、20年30年後を見すえて「今」の大切さを訴えられる声を厳しく受け止めていきたいと思った。中村先生の寛容な生き方に感銘を受けた。
- ・自閉症の生徒は、男子も女子も毎日のように、自分の恋や身体の悩みを訴えてくる。「体に触れてはいけない」など厳しく伝えること、とても大切と思った。今は許されても、大人になったら許されないこともある、などなど、あさってからすぐに実践します。場面やプログラムの展開を変えることの大切さも学んだ。
- ・今回のテーマは、今、現場で悩んでいることの1つである。今まで多くの研修に参加したが、今日のテーマは初めてだ。今後もぜひ同じような研修会を開いてもらえればうれしいです。

### 個別の教育支援計画・個別の指導計画

- ・ ICF での支援シートの作成とグループでの話し合いでは、その子どもの状態をしっかりと見つめることの大切さを学びました。また、話し合いでは、「そういう見方もあるのか」という思いをしました。学校でも、このような研修ができたらいいな、と感じました。
- ・ 個別の支援計画をきちっとまだ作ったことがないので、今日のお話を参考にして、すぐにでも作ってみようと思っています。また、ICF 関連図がよく分からなかったので教えてもらえて、とても役に立ちました。
- ・ ICF のとらえ方、記入の仕方など具体的に演習ができ、理解することができました。個別の教育支援計画と個別の指導計画についても、違いなどが理解しやすかったです。グループ分けでの演習に臨めてよかったです。
- ・ 計画の作成をもっと具体的に書いてよいのだということが救いになりました。かねてから重要なものと認識していたのでスッキリしました。さっそく本校でも具体的に立案していこうと思います。また、親の参画が必要と思いますが、このあたりの具体的事例の研修がほしいです。
- ・ ICF について、ぜひ自分の事例で行い、他の人との共通理解を深めたいと思いました。

### 臨床動作法の基礎と実技

- ・ ヨガやストレッチの実習のようでした。体がスッキリするのと落ち着く感じがしました。何より相手との信頼感も大きいと思います。手や体をくっつけて話しをしながら、ゆっくりとした動き！ 音楽を流して、リラックスタイムにぴったりですね。
- ・ 動作法の学習は、体や心の硬さがみられる子にもリラックスさせてできるので良いと思う。また、粗大運動として自分の体に問いかけるのによい方法と思われる。
- ・ 単に体を動かすだけでなく、お互いのやりとり、言葉だけでなく、体の動かし方、力の入れ方・ぬき方のやりとりなど、とても参考になりました。以前から関心を持っていたので、実技を教えていただいて、とてもうれしかったです。座位を教えていただいたのが基本だと思うのですが、立位などについても、また知りたいと思いました。
- ・ スキンシップをしながら、ゆっくり呼吸を合わせて、動作することで、精神的に落ち着くことを実感しました。言葉がけの理解の難しい子ども達が多いですが、できることからやってみたいと思います。
- ・ 支援学級だけでなく、学校全体でつとめたいと思います。支援学校の先生はさすがと思いました。理論と体の動きをしっかりと学ばれていると思いました。また、知



識だけでなく経験も大切だと思いました。先生のは、全てが活かされていたように思います。

- ・重度の自閉の子どもが今年入学してきます。その子どもの情緒の安定のためと思って参加しました。これが活かせるかどうか、今から楽しみです。体験しながら理解できた点がよかったです。
- ・自閉の子どもがいるので「体操」として取り入れてみたいです。
- ・実技をする時間があっという間に過ぎていきました。もう少しやりたかったです。

#### 会の運営

- ・冬休みのこの時期は人が集まりにくいのでしょうか？
- ・駅に近いのがよい(複数)
- ・遠く不便(北摂の人)
- ・平日の放課後や夏・冬休みに研修会をやっていただくとありがたいです。
- ・実技が多くあったので他の時期に研修できるようにしてほしい
- ・マットを準備していただいたり準備もたいへんだったと思います。よかったです。
- ・他の分科会にも参加したかった(複数)
- ・話し合いがしやすいように席を詰めて座るよう指示してほしい。
- ・(性教育)座席配置がよかった (口の字)

#### これからの研修・会の活動について

- ・複数の分科会を希望する人もいるので、同じ内容を夏冬2回するなど工夫してほしい。
- ・本日のように実技を多くしてほしい。
- ・親も発達障がいのあると思われるケースが多く理解していただくことに苦慮しています。家庭生活についての支援の方法などあれば教えてほしいです。
- ・(個別の教育支援計画) 親の参画が必要と思いますが、このあたりの具体的事例の研修がほしいです。
- ・(性教育)ぜひ単発でなく、シリーズでやってほしい。2時間では収まらなかった。
- ・(性教育)講師に直接質問・相談させていただく機会がほしい。

#### 冬休み中の研修への参加、そしてアンケートご記入 有難うございました

## 教育講演会

「障害者の自立と就労を進めるためには」  
～（株）かんでんエルハートの  
取り組みから～

平成21年1月17日、たかつガーデンにおいて、教育講演会を実施しました。

講師として、株式会社かんでんエルハートの設立に尽力され、初代社長をつとめられた戸田幸彦先生に伺っていただきました。



かんでんエルハートは、第三セクター方式による重度障害者多数雇用事業所です。「共生」をキーワードとし、あらゆる障害者が交流できる場、仕事を通じて誰もが無限の可能性を拓く場をめざして、さまざまな事業をすすめておられます。現在、約140名の従業員の内、約3分の1が知的障害者、約3分の1が身体障害者であり、重度の方を含め、それぞれの能力・適性を活かしての仕事に励んでおられます。働く喜びを持ち、人を育てていく日常のありさまについて紹介していただきました。

障害のある人もない人も皆、同じように社会に出て働いて生活したいと願っています。企業で働き自立していくために学校・福祉施設・家庭で連携して育成すべきことは何か、ということに熱弁をふるわれました。

何より、社会的自立と意欲を育てることの重要性。そのためには、善悪の判断、根気、あきらめない気持ち…が重要。そして、体力、基本的生活習慣、達成感、充実感…

講師の戸田氏自身が、ダウン症による知的障害に加え、目も不自由、言葉も出ない重度重複障害を持つ子どもの親でもあるため、お話の内容すべてが、私たちの心に強烈な実感とインパクトを持たせるものでした。

講演の最後には、参加申込用紙に書かれていた参加者からの個別の質問についても答えていただきました。

何人か、保護者の方も参加されました。もっと多くの方が、このような話を聞ける機会をもてたらいいな、と思いました。

途中でビデオが映らなくなるなど運営面で不手際があったこと、お詫び申し上げます。

参加された方のアンケートの中に、今回と同じように、障害者を雇用している会社や施設についての講演、障害のある子どもの保護者の講演を、実施してほしいという意見がありました。これからも、さまざまな学習の機会を持てるようにしていきたいと考えています。

参加された方のアンケートより

・子どもの指導に関して

「子どもをしっかり見つめること」「子どもと向き合い、思いを感じること」から、その子どもの進路(行き先・就労)を見据えた指導をしていく重要性を再認識した。

将来、社会参加ができるために、また、企業で働けるために、育成しておくべきことを、具体的に知ることができた。

必ずよいところがあるので、そこを伸ばしていくことは、好ましくない行動をとらないようにつながることが、具体的な例で、よくわかった。

- ・企業活動と障害者の居場所作りを合致させていることがすばらしく、障害のある子どもの将来に、少なからず希望を持つことができた。
- ・自分自身に今何ができるかを考え、実践するための気持ちを持たせてくれた。
- ・参加人数が多くなかったこととビデオの不具合が残念だった。
- ・事前の質問用紙がよかった。

## 大阪府支援教育研究会LD教育プロジェクト講演会（報告）

平成21年3月7日(土)に、クレオ大阪北で大阪府支援教育研究会LD教育プロジェクト主催の講演会が開催されました。講師には、昨年度に引き続き、岡山大学の佐藤暁（さとる）先生をお招きし、「通常学級における学び合いを支える支援」というテーマでご講演いただきました。約80名の参加者は、先生の豊富な授業研究に基づく支援に関する知見について、熱心に聞き入っておられました。終了後、参加者から「いい話やったなあ！」という声を耳にしました。

<内容>

### I. あるアスペルガー症候群と診断を受けた当事者の手紙の要旨から

「学校は、0か100を求める場所だった。するの？しないの？できる？できないの？という感じで・・・。0よりマシな30や40を用意する手立てはないのか！・・・」

「問題なのは、他の子どもたちにどう説明するか？ということです。先生方は、ある程度の理解があっても、クラスの他の子どもたちは、発達障がい有する子どもに、どう関わっていいかわかりません・・・」

「あの子の生き生きした表情を見るためには、どうしたらいいのか？どう関わっていくのか？そういう視点が多くの教員に必要ではないかと思うのですが・・・」

今、特別支援教育といえば、発達障がいのある子を検査して、その子をどうするかということの議論がなされがちなのだが、根本は、その子が生き生きとするためにどうしたらよいかを考えたい。そのためには、周囲の子どもたちが、その子にどう関わったらよいかを教えないと、その子は幸せにはなれない。

II. 国語教材「あまんきみこ作 おにたのぼうし」（自閉症の子どもがいる3、4年複式学級）の授業研究を通して、学び合いを支える支援のポイントを語られました。

#### 1. 読むことの大切さ。

国語の授業で、大切なことは読むことである。何度も繰り返し読む中で、分かってくる。読むことを通して、たくさんのことばにさらしてあげることが大切である。

#### 2. ことばは、人に届けるものである。

担任は、「伝えるように、聞かせるように読んでくださいね。」と言う。ことばは、人に届けるものであるということを意識した声かけである。自閉症の子どもは、声の大きさを調整できないと言われるが、そうではなく、人へ届けよう、他者を意識しようという気持ちが弱いのである。だから、人に声を届ける練習が必要である。自閉症の子の課題を、クラス全体で取り組んでいる。

#### 3. 周囲の子どもを育てる。そして、「自立」と「依存」。

何を書いたらよいか分からなかった子が、友だちのを見て、「こんなのを書けばいいんだ。」と納得していた。先生の話だけでは、ぴんと来なくても仲間の動きを見て、ピンと理解できることがある。つまり、仲間に分からないところを聞ける授業、分からないところを教える授業、穏やかな依存関係が育っている授業を目指したい。発達に課題のある子どもには、「自立」することを強調してきているが、上手に人に頼る「依存」を教えることが大切である。「依存」を教えるには、「依存」した時の成功体験を積む必要がある。そのような成功体験を積める集団に育てよう。

#### 4. 発達に課題のある子どもに最も大切なのは、“ことばを育てる”ということ。

発達に課題のある子どもに最も大切なのは、“ことばを育てる”ということである。“キレる子”というのは、行動がキレる前に、ことばがキレている。ことばが足りない時にストレスを抱えるのである。もっていることばの分だけ、世界が豊かに見えてくるものだ。子どもたちは、いっぱいことばにさらされているが、刺激の強いことばしか入ってこない。他のことばは、授業という非日常場面で丁寧に教えたい。子どもは、子どものことばから、最もよく学ぶので、言語環境をリードする子どもの役割は大切である。そして、仲間のことばを聞いて、「ああ、そうか。」と納得し、語りなおすことでことばが育っていく。「〇〇さんと同じです。」ではなく、必ず自分のことばで言いなおすようにさせたい。そして、書いてあることが、頭の中で絵になり、自分の体験と重ね合わせることができるようにしていきたい。

#### 5. 授業改善のキーワード

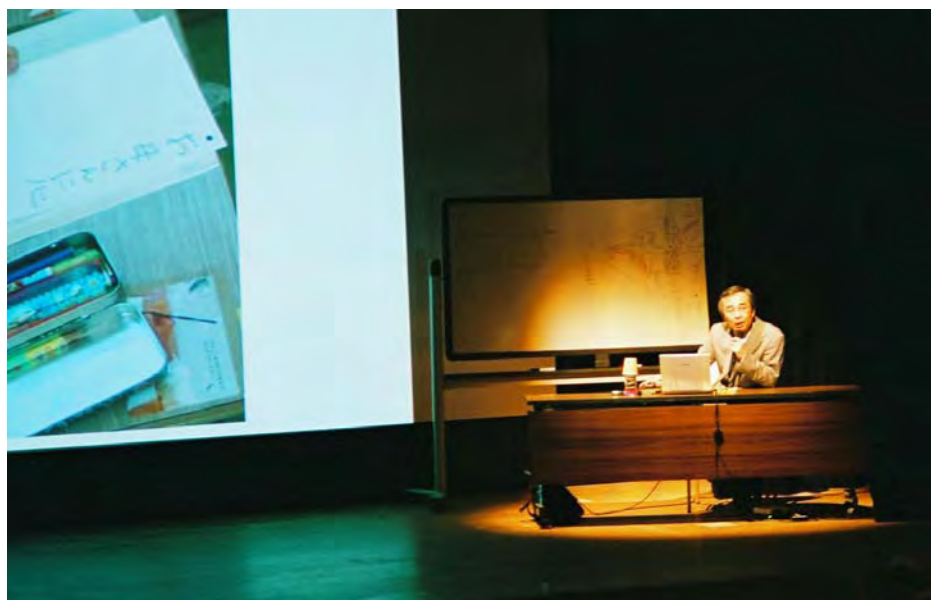
①子どもと教材をつなぐ。

②子どもと子どもをつなぐ。

③自分と自分をつなぐ。(さっきまで～と思っていたけど、今は、～と思う。)

子どもと子どもをつなぐためには、媒介が必要である。授業でいう媒介とは、学ぶ値打ちのある「教材」「課題」である。子どもと値打ちのある「教材」「課題」をつないだ上で、子どもと子どもがつながるのである。

(文責：南河内LD研究会代表 河内長野市立小山田小学校 清水初穂)



# 第22回 大阪ムーブメント教育 研究会のご案内

大阪ムーブメント教育研究会（JAMET 大阪支部）

代 表 金川朋子（大阪教育大学附属特別支援学校）

ムーブメント教育は、1977年に横浜国立大学教授・小林芳文博士によって、初めてわが国に紹介されました。『人間尊重』の教育を基本理念として、子どもの自主性・自発性を重視し、究極的には子どもの『健康と幸福感の達成』をめざしています。この素晴らしいムーブメント教育について、ともに勉強し、日々の教育実践に反映させ、楽しいムーブメント教育を広げていきたいと考え、2005年10月から大阪でも研究会をスタートしました。研究会の活動を通して、ムーブメント教育が大阪を中心として西日本でも大きく広がり仲間がつながり、平成20年8月16日（土）～17日（日）に夏期セミナー第3回大阪大会を開催しました。

ムーブメント教育に興味をもたれている方、もっと勉強してみたいと思われる方、ぜひ参加してください。また、まだムーブメント教育を知らない方々も仲間でおられたらぜひお誘いください。

☆ 日 時 :平成21年 4 月 11 日(土) 14:00 ～ 16:00

☆ 会 場 :大阪教育大学 天王寺キャンパス  
(JR 環状線 寺田町駅下車 徒歩 5分)

☆ 参加費 :500 円 (当日 徴収いたします)



《第20回研究会の様子》

☆ 内 容 : 楽しい環境を活かしたムーブメント教育・療法

☆ 申し込み先及び方法

:金川朋子 自宅 FAX 072-367-0713

:E-MAIL [kogorou123@nifty.com](mailto:kogorou123@nifty.com)

:下記の申込書にご記入の上FAX、もしくはメールでお申し込みください。

☆大阪ムーブメント教育研究会ホームページ <http://homepage2.nifty.com/osaka-movement/>

☆ その他

・動きやすい服装でご参加ください。

・問い合わせ等

金川朋子(大阪教育大学 附属特別支援学校)

学校TEL 06-6708-2580 学校 FAX 06-6708-2380

携帯 090-9984-1183 自宅 FAX 072-367-0713

☆ ムーブメント教育 研修会(4月11日) 参加申し込み

ご氏名(ふりがな)	所 属 名	連 絡 先
		TEL・FAX
		E-MAIL

\* 複数枚必要な場合は、おそれいりますが、コピーをしてお申し込みください。